



日中地方交流に蜜月到来なるか？ ～3,000人訪中イベント～

(一財)自治体国際化協会北京事務所所長補佐 飯田 郁子 (新潟県派遣)

2015年5月、日本から観光業界関係者を主とする3,000人の訪中団(日中観光文化交流団)が北京を訪れました。北海道、埼玉、福井、奈良の4道県知事をはじめとした自治体関係者も訪問団として訪中し、クリア北京事務所では滞在中、福井県知事への中国概要のレクチャーやアテンドといったお手伝いもしました。

これは、二階俊博自民党総務会長の発案で、「観光交流拡大」のため中国側と交流を行うことを目的としたものです。これにあわせ、5月22日から24日にかけて北京では訪日観光関連のイベントも数多く開催されました。

イベントスケジュール

5月22日

- 北京・観光分野における対日投資セミナー(主催: 日本貿易促進機構(JETRO))
- 中国旅行社との商談会(主催: 日本政府観光局(JNTO))
- 日中ファッション・観光・文化交流会(主催: 日本政府観光局(JNTO)、中国対外文化交流協会)
 - ・太鼓集団TAOによる演奏
 - ・コシノジュンコファッションショー(北京服装学院生徒モデル46人出演)

5月23日

- ビジットジャパンFITトラベルフェア(～24日)(主催: 日本政府観光局(JNTO))
- Yokoso Nippon!(主催: 在中国日本大使館)
- 日中地方創生観光シンポジウム(主催: 中国国家旅遊局、日本政府観光局(JNTO))
- 日中観光交流の夕べ(主催: 中国国家旅遊局、日中観光文化交流団実行委員会)

なかでも、メインイベントの「日中友好交流の夕べ」では、習近平主席が演説を行い、「日中友好の基礎になるのは民間交流である。両国関係が不調な時こそ民間交流を強化しなければならない」と日中間の民間交流の重要性を強調しました。

草の根交流の転換点

この発言は、事実上の「日中民間交流へのGOサイン」と捉えられ、われわれ日本サイド以上に、中国地方政府など中国サイドが勇気づけられたようです。実際、これを境に、中国地方政府の日本との交流に対する姿勢が大きく変化し、非常に積極的になりました。

半年以上たった今でも、中国で日中民間交流の話題の際に必ず引用される、大きな転換点となったこのイベント。クリア北京事務所が参加した各種観光イベントを中心に「3,000人訪中イベント」の全容をレポートし、イベント後の日中民間交流の変化について紹介します。

Yokoso Nippon! (日本欢迎您)

23日には日本大使館において、中国の旅行関係者らを招待してYokoso Nippon!(日本欢迎您)が開催され、クリア北京事務所もブースを出展しました。

ブースを訪れた方々からは、「温泉に行きたいけど、有名な場所は?」「京都・大阪には行ったけど、ほかのおすすめの地方は?」など具体的な質問が飛び、日本の観光地に興味津々な様子でした。企業ブースでは、食品・飲料・化粧品・医薬品・バイク・カメラなどの展示が行われました。屋外の中庭では、日本料理の試食やビールの試飲なども行われ、賑わいを見せました。

さまざまな「日本」に直接触れられるイベントだけあって、観光だけでなく、日本の製品・文化の絶好のPR機会となりました。

FIT トラベルフェア

23日、24日に、日本政府観光局（JNTO）主催によるFIT（個人旅行者向け）トラベルフェアが開催され、多くの自治体（宮城県、福島県、群馬県、新潟県、福井県、長野県、奈良県、和歌山県、高知県、福岡県、長崎県、鹿児島県、箱根町）や広域観光機構などが出展しました。クレアもブースを出展し、各自治体作成の観光パンフレットのほかに、オリジナル団扇を配布してPRを行いました。



人民大会堂のなかで開会を待つ



クレアブースも観光パンフレットが品切れになるほど人気

当日は、開場を待つ来場者で行列ができるほどの盛況ぶりでした。来場者の年齢層は幅広く、とりわけ、小さな子どもを連れた家族連れの姿が多くみられました。

ブースで対応をしていると、枝豆が映った観光ポスターを見て、「これは東京でも食べられるのか？どこに行けば食べられるのか？」といった質問や、「東京から



屋外には日本メーカーのバイク展示も

はどうやっていくのか？この地域のなかで観光地はどこか？」など、実際に旅行に行くことをイメージした具体的な質問を多くいただきました。日本に行ったことがある人や日本語を話せる人も多く来場していました。結果的に、本当に興味のある人を集めることができた効果的なイベントになりました。

日中観光交流の夕べ

訪中団最大のイベントは23日の夜、人民大会堂（中国の国会議事堂）で開催されました。

1 天安門広場が駐車場に

訪中団が利用する数十台のバスのために、天安門広場をすべて閉鎖して、その周辺道路も車をすべてシャットアウトするという大がかりな交通規制が行われました。全人代（中国の国会）の会期中にはよくある光景ですが、それに匹敵する対応が取られたことになります。

2 華麗なるエキシビジョン

3,000人が一堂に会する食事会では、300卓以上の丸テーブルが用意され、世界的に有名な中国人ピアニスト郎朗氏の生演奏や、顔のお面が早変わりする四川省の伝統演劇「変臉」が披露され大いに楽しませてくれました。

3 習主席の演説

2000年に二階会長が観光業界関係者らを連れて訪中した際、人民大会堂で開かれた式典には当時の江沢民主席が出席したことから、今回もかなりの「大物」が演説をするのではないかと、もしかすると習主席が姿を現すの

ではないか、という憶測が飛び交っていました。しかし、当日になっても情報はなく、式典開始後も分からない、という状況でしたが、歓迎の意を述べたのは習主席でした。

報道によると、習主席がこうした大規模な日本からの訪問団を前に演説をしたのは初めてであり、中国側からはほかに、汪洋副首相、楊潔篪國務委員、李金早国家観光局長、王安順北京市長らも同席しました。

この演説内容は、翌日の中国共産党の機関紙「人民日報」に全文が掲載されたほか、中日友好という看板を背に演説する習主席の写真が一面トップを飾りました。日本との友好的なニュースが人民日報の一面を飾ること自体、習政権になってからは初めてのことであり、それ以前でもマスコミ関係者が記憶にないというくらいに稀な扱いで、新聞を前にしてわれわれクレア北京事務所のスタッフは大興奮しました。

日本では、演説内容は歴史認識が中心であったように報じられていますが、いわゆる歴史認識問題に触れたのは全体の5分の1程度であり、それ以外は、安倍仲麻呂、田中角栄など日中友好のために力を注いだ人物の紹介や、日中関係がいかに重要か、特に若い世代の民間交流を進めようといった呼びかけが中心でした。



人民日報の一面トップには桜と中日友好を背にした習主席が

習主席演説「後」

習主席演説後、中国地方政府の日中間交流に対する姿勢は、これまでの「おそろおそろ」から「前へ前へ」に一瞬にして変化し、クレア北京事務所でも「当省は日本との友好都市提携がまだない。ぜひ相手方を見つけたいので力になってほしい!」、「来年の日中地域間交流推進セミナーはぜひわれわれの都市で開催してほしい!」という熱いリクエストをいくつもいただきました。

昨年7月に青海省西寧市で開催した日中地域間交流推進セミナーでは、シンポジウムの最中に、西寧市からシンポジウム参加者の兵庫県小野市へ初対面であるにも関わらず「ぜひ今すぐに友好都市になってほしい」と電撃公開プロポーズを行う場面もありました。

「友好都市」以外にも、港など特定の共通項を持つ自治体同士が経済活動に関して協力関係を結ぶものや、スキーや登山など特定のスポーツの分野に関して協力関係を結ぶものなど、新しい形での日本の自治体との交流を中国の地方政府は求めてきています。「多くの日本の自治体と交流したい。『結婚』である友好都市はひとつの自治体だが『親友』は何人いてもよい」と話す地方政府の方もいました。

例えば、山東省青島市は経済協力パートナーシップを札幌市、川崎市それぞれと締結し、新たな形での交流・協力関係を模索しています。残念ながら、予算の削減や中国に対する印象の悪化などにより、日本の自治体は中国との交流や中国における活動におよび腰になっているところが多いように思います。

習主席が演説で述べたように、隣人を選ぶことはできませんが、隣国を選ぶことはできません。日中地域間交流は今、追い風が吹いています。中国側が熱心になっているこの機を逃さず、たとえ小さな交流であってもスタートさせるべきだと思います。中国側との調整やアテンドなど、クレア北京事務所がお手伝いします。百聞は一見に如かず。是非一度、発展著しい中国を訪れ、地方政府との交流に取り組んでみませんか。